

## 編集室

## 2014年を振り返って

ここ数年、「今年もあっという間に過ぎ去ってしまった」と感じるのですが、2014年の1年は違いました。11月17日に義父が90歳で亡くなりました。4月に卒寿のお祝い、5月に胆石イレウスの緊急手術。7、8月はリハビリ、9月からのデイサービス、そして11月の事故による緊急入院。主治医から病状説明、警察官との検屍。続いたの通夜、葬式。義父の死は運命と受け入れ、90歳まで生きることができたのだから大往生と思うようにしています。そのような事も2014年は長い年と感じました。ふり返ると子どもの頃の1年はとても長かったように思い出されます。一方ここ数年の1年はあっという間の短い1年です。同じ365日なのに、なぜ長く、あるいは短く感じるのでしょうか？当然それは1年の記憶の多寡によるのでしょうか、記憶は感動した量と私は思います。子どもの頃は、物事に対して新鮮な気持ちで、毎日が新しい発見であり、それが感動になり、しっかりとした記憶に残るのでしょう。一方最近の私のように、年を取るにつれて物事に対して新しい発見や感動が少なくなると記憶に残らないのかもしれませんが、つまり感動のない日々を過ごす1年は短く感じる事になるのでしょうか。さて皆さんの2014年は長かったでしょうか。

ここで広島県医師会の2014年を振り返ってみます。以下に広島県医師会速報の各号のトップ記事を列挙しました。

(1月) 年頭所感(平松恵一広島県医師会長)、市郡地区医師会感染症担当理事連絡協議会、平成25年度日医認証局の運営に係る情報担当理事連絡協議会。

(2月) 平成26年度広島県医師会新年互礼会、病床機能報告制度・地域ビジョン説明会、平成25年度第3回都道府県医師会会長協議会。

(3月) 平成25年度感染症協議会、平成25年度女性医師部会総会、平成25年度市郡地区医師会

医事紛争担当理事連絡協議会。

(4月) 21世紀、県民の健康とくらしを考える広島県民フォーラム、第16回検査部長・技師長連絡会議、第131回日本医師会臨時代議員会。

(5月) 都道府県医師会地域医療ビジョン担当理事連絡協議会、都道府県医師会新たな財政支援制度担当理事連絡協議会、経理・財務特別委員会。

(6月) IPPNW日本支部理事会・総会・広島県支部総会、第二次平松執行部が発足、第30回日本救急医学会中国四国地方会。

(7月) 第132回日本医師会定例代議員会、広島県医師会役員就任のご挨拶、平成26年度第1回母体保護法指定医師研修会。

(8月) 第27回全国有床診療所連絡協議会、広島県四師会役員連絡協議会、被曝69年目のヒロシマ。

(9月) 横倉義武日本医師会会長広島土砂災害被災地に激励訪問、HMネット在宅医療支援ツール説明会、広島土砂災害見舞金・義援金。

(10月) 広島土砂災害見舞金・義援金、広島土砂災害義援金、広島土砂災害義援金を日本赤十字社広島県支部へお届けしました！

(11月) 広島土砂災害義援金、第1回共同利用施設委員会～医師会立看護学校問題について～、広島土砂災害見舞金。

このように列挙すると、2014年に広島県医師会ではいろいろな事があったのが分かります。最後に、私の独断による広島県医師会速報2014年のベスト1は広島土砂災害に関する記事の「横倉義武日本医師会会長広島土砂災害被災地に激励訪問」としました。出来事としては悲しい事に分類されるでしょう。2015年は嬉しい出来事をベスト1にしたいものです。そして2015年が皆さまにとって幸多く、感動の日々の1年でありますように。

(山田 博康)

## 広島県医師会速報 2014年(平成26年)12月25日

●発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒733-8540 広島市西区観音本町一丁目1番1号 TEL 082-232-7211 FAX 082-293-3363  
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: kouhou@hiroshima.med.or.jp

●編集者／広島県医師会会長 平松 恵一  
(広報委員) 山中 祐介、小園 亮次、高路 修、佐々木 達、佐々木 龍司、谷 充理、中尾 三和子、平林 直樹、  
正岡 良之、吉田 良順、小笠原 英敬、水野 正晴、岩崎 泰政

●印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800